



CEReS

News Letter No. 60
Center for Environmental Remote Sensing, Chiba University, Japan

千葉大学環境リモートセンシング
研究センターニュース 2010年11月
(本号の編集担当：近藤昭彦)
発行：環境リモートセンシング研究センター
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
Tel: 043-290-3832 Fax: 043-290-3857
URL: <http://www.cr.chiba-u.jp/>

学会参加報告 APHW2010 in Hanoi, Vietnam



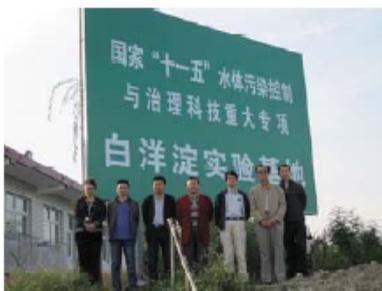
2003年に京都において開催された世界水フォーラムを契機に設立されたアジア太平洋水文水資源協会（APHW）の学術大会は隔年で開催されていますが、ベトナム、ハノイで開催された第5回大会に参加してきました（11月8～10日）。

ハノイは10年ぶりでした。前はビザを取得し、入国カードを記入した記憶がありますが、今回は日本人はビザも入国カードも必要なくなり、アジア圏における移動は本当に楽になりました。

APHWは久しぶりの参加でしたが、大会の受付で受け取ったプロシーディングスは631ページ、厚さは2.8cmに達し、アジア太平洋地域における水文・水資源分野の興隆に大いに安心しました。CEReSからの参加は2名で、近藤が「Nitrate Contamination of Environmental Water in the Upland with High Population Pressure」、理学研究科のチン ティ タイン ジュエンさんが「Evaluation of Flood Inundation Area in Asian Monsoon Region using Remote Sensing」のタイトルで講演を行いました。その内容は水質汚染、洪水対策に関するものでしたが、どちらもアジア地域の共通の課題として議論を深めることができました。[近藤昭彦]



訪問記一華北平原、白洋淀一



9月下旬に中国、石家庄市を訪問しました。汚染が深刻な閉鎖性水域である白洋淀の調査（201001号参照）の後、河北省環境科学院を訪問し、意見交換を行いました。石家庄は2年ぶりでしたが、街の様子が大きく変わっており、中国の発展のスピードには大変驚かされました。同時期に不幸な出来事も起こっていましたが、

そんなこととは関係なく熱烈歓迎して頂き、草の根交流がどんな外交よりも大切であることを改めて実感した調査行となりました。[近藤昭彦]



<研究活動報告>

マレーシアにおける地すべり災害および水害による被災低減に関する研究

地球規模課題対応国際科学技術協力事業に採択された防災分野研究「マレーシアにおける地すべり災害および水害による被災低減に関する研究」(代表:西尾文彦教授)の第1回グループミーティングが、11月22日~26日にクアラルンプール郊外にある Tenaga Nasional 大学 (UNITEN)において行われました。



近年、マレー半島では、急激な都市化および温暖化に起因していると思われる集中豪雨により地すべり災害や水害が多発していますが、その実態調査や観測データが不足しているという理由から被災低減策の策定が立ち後れています。これを受けて、マレーシア国内で都市化が著しい地域を対象に、衛星データや無人航空機を使用した現地観測を行うとともに、地すべり災害や水害に関する地形要因、発災歴、降水量などの統計データを収集・評価し、統合データベースとして構築するための本研究が開始されました。地すべり災害・水害の発生危険域と危険度の評価、地図化、事前対策や早期警戒・避難などの被災低減化を支援するシステムの構築を図り、東アジア諸国における日本の科学技術の貢献を目指している本研究プロジェクトは、Group1:Remote sensing & Geographical Information system、Group2:Flood、Group3:Landslide、Group4:Data center、Group5:Early warning system & Dissemination の5つのグループで構成されています。

今回は Remote sensing & Geographical Information system グループの両国研究関係者が一堂に会して、研究実施内容および役割分担の再確認、研究者の受入れに関して情報交換を行いました。さらに、会期後半にはリモートセンシングとGISに関する知識を深めるためのセミナーを開催しました。最初にビジョンテックの原博士から衛星データの受信およびデータベース構築とリモートセンシングデータを用いた災害被害解析に関して、続いて山本氏がオルソ画像やDEMの生成手法について、小花和博士がGISデータを用いた災害解析事例の紹介を行いました。また、最終日の11月26日にはヨサファット准教授がSARデータの基礎と信号処理方法やセンサ開発について、本郷助教が光学衛星データを用いた土地利用変化や洪水被害解析の事例について講義を行いました。期間中延べ80名の研究関係者が参加した今回のグループミーティングは、最終日に5日間の総括を行うとともに今後のアクションプランを相互確認して閉幕しました。(本郷千春)



ヨサファット准教授による Synthetic Aperture Radar Data Processing and Analysis の講義風景



本郷助教による Satellite Data Processing and Analysis (Passive Sensor)の講義風景